

頑張る

農業法人

宇治田原町南地区は、100年以上の歴史を持つ宇治茶の産地。(有)栗林園(くりばやしえん)は、高齢化が進む同地区で集落の茶園保全に取り組む。代表取締役の朝倉保幸さん(55)は「斜面茶園の平たん地化で効率的な生産を目指している」と経営発展への思いを話す。

同町は江戸時代に煎茶製法が開発されて、緑茶発祥の地といわれている。南地区にも山の斜面に茶園が広がり、朝倉さんも祖父の時代からの茶農家で、玉露や煎茶を生産してきた。

朝倉さんは茶関係業者と情報交換し、抹茶の需要に着目。「今後は値が良いてん茶が伸びる」と先を見通した。1989

年に一気にてん茶に切り替えた。さらにコスト低減を図るため、てん茶工場も同時に設置し、合理化を進めた。その後、品質向上のためてん茶に合った品種「さみどり」「おくみどり」に改植した。

農家からの加工委託なども増えて1997年に工場のラインを増設。2000年5月1日には、節税や社会的信用の向上を目指し、家族で有限会社を立ち上げた。

社名は、茶園が広がる栗林の地名にちなんだ。役員は3人で、保幸さんと長男の健太さん(24)、長女の園恵さん(27)。従業員3人で、農繁期には10人を臨時雇用する。

地域の茶生産者の高齢

宇治田原町

有限会社 栗林園



てん茶栽培に力を入れる朝倉保幸さん(右から3人目)、健太さん(左から2人目)とスタッフたち

地域の茶園保全に力

化が進行する中で、同社の管理茶園8畝のうち、約半分は集落内の生産農家20戸からの受託となつてい

ている。茶園の荒廃を防ぎ茶産地の維持に向け

先見て てん茶に切り替え

「もうけだけ考えてはやれない」と地域貢献に努める。茶はJ A京都やましろに出荷する他、一部は小売りもする。

また、地域特産の干し柿「古老(ころう)柿」も生産する。約3トの生柿の皮をむき、棚に並べて仕上げ、年末年始の贈答用として販売する。

保幸さんは「斜面茶園の平たん地化に取り組んでおり、近い将来には乗用摘採機の導入も予定している。茶のインターネット販売にも挑戦したい」と事業展開への抱負を胸にしている。

後継者の健太さんも「より高品質茶の生産と効率化で、地域特産のハイブランドを守り抜きたい」と意欲的だ。

▽法人所在地 綴喜郡宇治田原町南中屋23、電話 0774(88)2265